

南部鉄器(盛岡)の発展

2014年11月19日
NHK総合テレビ

約400年前に、茶道の茶釜からスタートした南部鉄器は茶が庶民に広がるとともに鉄瓶(日本独特の物)を開発しました。



その南部鉄器が現在、多機能性コーヒーポットを開発、市場の話題を集めています。そのデザインは多様で、日本のみならず世界に羽ばたいています。

黒色のコーヒーポットはシックで落ち着いた雰囲気、レッド・イエロー・グリーンは明るく綺麗にキッチンや食卓彩ります。昼食後のちょっとした時間やティータイムのゆったりとした時間をほんのちょっとだけ贅沢にするアイテムです。

もちろんそれだけでなく、南部鉄器の特性は生きています。

厚く作られた鑄鉄器が熱をたくさん保有し、ポットの中身の温度を保ちます。

また、熱源にかけたときにはポット全体でふんわりとした熱で中身を温めるので、コーヒーやお茶などの風味も楽しめます。

鉄器は水道水などに含まれる塩素を除去するはたらきもあるため、味がまろやかになります。

また、水沢地区は南部鉄器の生活雑貨産地として存在感をしめし、風鈴、鉄の起き上がり小法師……が知られます。

「鉄の起き上がり小法師」は2012年、日本で行われたIMF・世界銀行年次総会時のお土産に採用され、世界からのゲストに高い評価を得ています。

鉄はオモリにはなるが、重くて自分では起き上がらないという世間の常識を覆し、

どんなに転んでも、器用にけなげに、ころころ、しゅたっ！と起き上がります。

東北から、日本、世界を元気に。そんなメッセージがこめられた小法師たち。

ぜひ、もっと多くの人、とりわけ日本人にこそ手に取ってほしい。

そんな思いから生まれたのが「てつっこ」です。リクエストの多かった南部鉄器製おきあがり小法師のソロデビューとなりました。

